

2021年度

事務局だより

NO.6 (通算 NO.14)

2021・5・30

一般社団法人

示現会

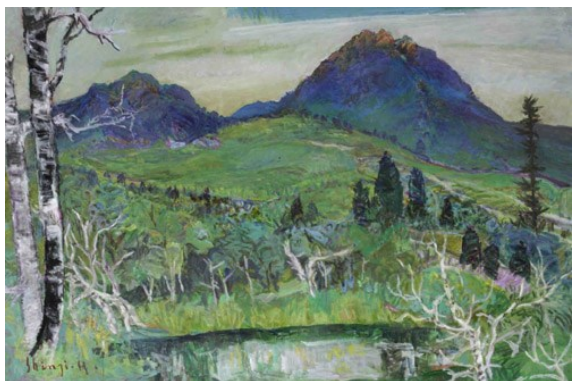
- 国立美術館での74回展終了報告
- 畠山理事ご逝去のお知らせ
- 今後の予定

裏面 ○<特集1> 巡回展報告
○<特集2> 出品作品を解説

残念なお知らせです。畠山先生がお亡くなりになりました。絵に対し真摯に向き合う姿勢は非常に気高いものでありました。暑くなりました。コロナ対策油断しないください。

畠山新治理事 ご逝去のお知らせ

病氣療養の甲斐なく本年
5月9日永眠されました。
享年84歳



第72回示現会出品作品 画帳84 知床夏

自然を愛し、風景画家として確固たる画風を確立した
畠山新治先生でした。豪快な風格で酒を愛し、写生
会では、盃を片手に夜が明けるまで絵の話をされまし
た。
監事、理事として10年余示現会、発展に寄与されまし
た。心からお悔やみ申し上げます。

- 1934年 宮城県に生まれる
梶原健三先生に師事
- 1967年 示現会佳作賞
- 1971年 示現会会員
- 1977年 日本山林美術展 会員
- 2010年 示現会監事
- 2020年 示現会理事

今後の予定

7月・リモート研究会

6月の研究会には、全国から69名の参加がありました。
引き続き7月の研究会の案内です。皆さんの参加をお待
ちします。

受付締め切り 7月12日(月) 研究会7月18日

第2回夏季・示現会奨励展

会場 銀座アートホール 期日 8月24日(火)~8月29日

出品者83名が決定しました。案内状等は、コロナの状況
をみて、配布いたします。詳しくは、後日この事務局だよ
りでお知らせいたします。

多くの方々の協力に感謝

三月三十一日に開会した七十四回展、静かに静かに一三日
間を経過して、四月一二日に幕を閉じました。その間に行
った取り組みといえば、三十一日の表彰式だけ、出品者懇親
会も、閉会・撤去後の打ち上げもありませんでした。受付
での招待券の握りも、人の集まる早見表の掲示も省略、
来賓者の事務室での接茶もなし、当番の昼食時のお茶の
給仕もなくなりました。
全てが、省略、簡素化の展覧会でした。
例年の半数位のお客さんを無言で出迎え、静かに鑑賞
されるのを見守り、お帰りになるのを無言で見送る展覧
会でした。
全国で制作している示現会の仲間との一年ぶりの邂逅
も、お互いの作品の話し合いもない静かなものでした。し
かし、このような展示会もありかもしれません。お祭り騒
ぎではなく、一点一点の作品に對峙して、心いくまで語り
掛け、作品の発する言葉に聞き入る展覧会だったのではな
いでしょうか。

展覧会事務責任者 井上 武



美術雑誌、「美術の窓」6月号に第74回示現会
展の作品を「公募展だより」で139点を紹介して
おります。
同時期に開催しました創元会展、水彩連盟展、
又、光風会展等の作品も見ることができます。

巡回展始まる

四月二十一日、兵
庫展を皮切りに第
七十四回示現会展
の巡回展が始まり
ました。今年度は十
四会場で開催され
る計画になっており
ましたが、コロナ感
染が続く、厳しい状
況ということで、五
月二十五日から
「北九州展」は開催
を中止いたしました。
今後の感染の様
子により開催に際
しては予断を許さ
ない状況が続いま
すが、巡回展を開
展したところにつ
きましては、順次
報告をしていく
予定です。

《岐阜展》
11月9日(火)
~11月12日(金)
ぎふメディアコスモス

《福井展》
12月1日(水)
~12月5日(日)
福井市美術館

《金沢展》
2022年
1月19日(水)
~1月23日(月)
石川県立美術館

《青森展》
7月28日(水)
~8月1日(日)
青森市民美術展示館

《京都展》
8月31日(火)
~9月5日(日)
京都市京セラ美術館

《長岡展》
10月10日(日)
~10月16日(土)
長岡市美術センター

《和歌山展》
6月2日(水)
~6月7日(月)
和歌山県民文化会館

《徳島展》
6月11日(金)
~6月15日(火)
あわぎんホール
(徳島県
郷土文化会館3F)

《山形展》
6月30日(水)
~7月4日(日)
山形美術館

《名古屋展》
7月13日(火)
~7月18日(日)
愛知県美術館

《兵庫展》
4月21日(水)
~4月25日(日)
兵庫県立美術館王子分館
原田の森ギャラリー

《福岡展》
5月11日(火)
~5月16日(日)
福岡市美術館

《熊本展》
5月18日(火)
~5月23日(日)
熊本県立美術館分館

《北九州展》
5月25日(火)
~5月30日(日)
北九州市立美術館
黒崎市民ギャラリー



北九州展は中止
となりました

特集1

巡回展報告

74回示現会展の巡回展が始まりました。
まだコロナ禍がおさまらない状況の中での開催ですので、支部ではいろいろと苦心されているようです。

コロナ感染者の多い兵庫ですが、コロナ対策をしっかりと行いながら第74回示現会兵庫展が4月21日から始まりました。

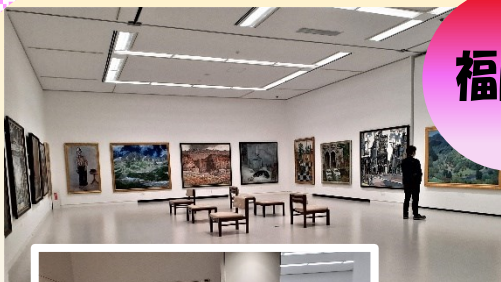
初日のようすから入場者は例年の半分くらいと読んでいましたが、緊急事態宣言により最終日の25日から会場が閉館となり、半数にも満たない543名にとどまりました。しかし、たとえ4日間であっても兵庫展が開催でき、多くの方々に作品を鑑賞していただけてよかったと思っています。

そして、支部公募展の「芹生賞」に初代支部長芹生政夫先生の奥様が百歳というご高齢にもかかわらずご家族と共に賞状授与に来ていただけたこと、初日に京都支部長荒井まき子先生が激励に来ていただいたこと等、本当にありがたい兵庫展でした。(兵庫支部長 高見雅博)

兵庫展



福岡展



準会員賞
会友賞
佳作賞
佳作賞
現寿賞

石橋 清市
陶山 高義
宮崎 和美
橋本 ちづ子
渡邊 英磨
隈丸 千代ノ
石井 邦光
篠原 裕輔
三輪 喬一郎
中島 久輔

会友推薦
長門 真由美
富松 高義
陶山 保子
佐藤 正枝
原 弘次
野見 和博
西沼 修輔
長島 誠市
中保 誠市
久保 誠市
佐藤 誠市
野見 誠市
原 誠市
佐藤 誠市
富松 誠市
長門 誠市

福岡県が5月12日から自粛宣言発令予定の中、11日(火)「一日だけの開催なんて」等の意見がある中で美術館が開館している限り開催の方向でと決心しており、悩みましたが来場者が無くても、一日だけの開催の為に10日(月)業者と係のみで飾付強行の最中、入場料有料展のみ16日(日)までの開催許可が下りました。

不安な意見が続く中、久留米支部の当番も遠慮頂き、福岡支部の来られる人のみで一週間を乗り切りました。宣言下にも拘らず入場者は例年に比べ微々たるものですが足が止まることはなく、1050人の来場者でした。お陰でゆったりと鑑賞でき、自画自賛ですがいい雰囲気会の会場でした。久しぶりの充実感を味わっています。来年はお客様にいっぱい会の会場になる事を祈るばかりです。(福岡支部長 瀧井利子)

特集2

作品解説

役員が74回展で展示された自身の作品を解説いたします。作品は巡回展でご覧になることができます。どのような場所をどのように思い、作品として昇華させたのか等、皆さんの今後の制作の参考になる言葉を見つけていただきたいと思います

錦織重治(常務理事)



瀬沢橋

山は、そのまま描写するだけでは作品になりません。まともな上げの前にその周辺をめぐり、いろいろな面から検討します。一面を眼で眺めるだけでは表現の足しにはなりません。私のこだわりは実際にその場に立つて空気を肌で感じることからを心情としています。今回は登山家の評価、感想を聴くことが目的でした。憧れの奥上高地です。河童橋から更に奥へ、明神池、徳沢を経てその先、横尾山荘まで4時間。横尾山荘で一泊。翌朝、穂高連峰を東側から巻き込む急登コース、標高差100m、実に5〜6時間。やつこの思いで到着の瀬沢カールです。瀬沢ヒュッテで泊して、スケッチしたものを下絵として描いた北アルプス南部、瀬沢岳の檜標高3,100mです。

山岳風景画の特殊性として鑑賞者の立場という問題があります。山を愛する人からすると山の雰囲気、描かれていることが第一条件だからです。理解を深め自分の表現の足しになるものを引き出すために。

取材 2019.7.13-18]

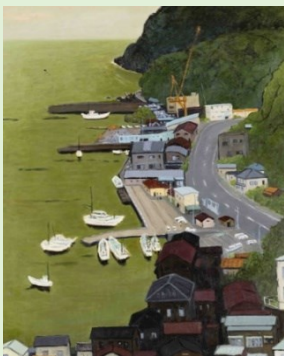
渡邊良一(理事)

写生地真鶴岬は東京から快速に乗れば宿まで一時間半もあれば行き着くところですが、絵描きなら一度は出かけているのではないかと思います。

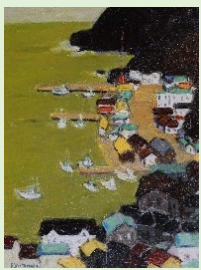
この場所に行きたいと思ったきっかけは、私が示現会に出品始めたころ創立会員、石川寅治先生の「三つ石、真鶴港」黒線と淵とられた赤褐色素晴らしかった。光安浩行先生は「真鶴漁港」黄緑の海が印象的であつた。今でも目に焼き付いている。いつか自分も先生方の様な独特な表現で描けたらいいなと思いつつ描き示現会に出品しました。

遠近感技法
寒色は遠方、暖色系は近いところ、遠方は彩度落とす。遠方は小さく、近場は大きくなる。ほとんど使わな(い)が、混色
3色以上混色しても濁らない、配色、色面、明暗、アクセント、キャンバス上で色を作りバールよく考え構成する。

真鶴漁港



スケッチ F6



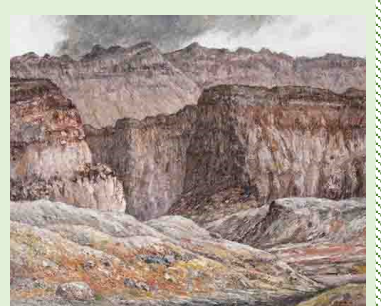
小村啓治(理事)

阿蘇を描いて
ここ数年私たちは震災や水害や自然災害に翻弄されている。そして自然の力をつらねて。傲慢な人間をあざ笑うかのような自然の力である。

古来人間は人の力の及ばないものを神として祈りの対象とした。自然の猛威にひれ伏し、神に涙して祈り、逃げ回って神の怒りの治まるのをじっと耐えて待った。その恐ろしさに恐れおののき、人間の小ささや弱さをひしひしと感じながら畏敬の念をもつて自然と接してきた。

熊本震災の後、阿蘇の噴火と続いたがやがて穏やかになった。雄大な阿蘇に立つと、光や風やにおいや色や音や五感に感じるものすべてが人間の小ささと傲慢さをドーンと教えてくれるような気がする。億年、万年の悠久の時の流れが阿蘇のすべてを造っている。まさに神の仕業である。

今回、その大きな阿蘇の雄大さを表現しようとしたが難しかった。
2021.4.19



阿蘇